# NFRJ18　実査の状況

○田中慶子（慶應義塾大学）

本報告の目的は、2019 年 1 月から実施された「第 4 回全国家族調査」（NFRJ18）の実施状況を概説するとともに、これまでの調査と比較して NFRJ18 で取り入れた方法論の変更や工夫について整理することである。

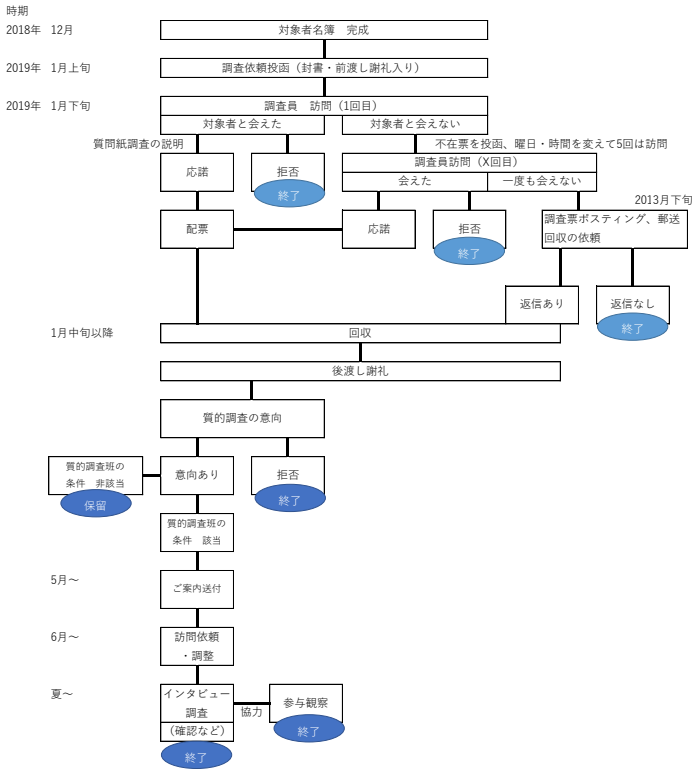
NFRJ18 は日本家族社会学会全国家族調査委員会が実施している、確率標本による全国規模の家族調査で 1999 年の第 1 回調査を皮切りに、これまで 2004 年、2009 年 3 回の調査を実施してきた。NFRJ18 の調査設計および実施プロセスは以下の通りである。

【NFRJ18　調査設計】

調査地域：全国
調査対象：2018 年 12 月 31 日現在　満 28～72 歳の男女個人
（1946 年 1 月 1 日～1990 年 12 月 31 日生まれ）
標本数：5,500 人（275 地点）
抽出方法：層化 2 段無作為抽出法
抽出台帳：住民基本台帳

層別：全国の市区町村を都市規模、47 都道府県によって層別。
①22 大都市、②人口 10 万以上の市、③その他市町村
調査方法：留置法（一部、郵送併用）
調査時期：2019 年 1 月 26 日～5 月 7 日（郵送最終回収日）
回収数：3044（男性 1434、女性 1610）
回収率：55.3%（2019 年 5 月時点の暫定値）

【NFRJ18（留置き→郵送）から質的調査依頼への流れ】




時系列データである NFRJ は、比較のためにもこれまでと同様の調査方法を踏襲することを基本方針とした。しかし近年の「社会調査の困難」な状況をふまえ、少しでも回収率を向上させるため、①謝礼の前渡し、②複数回の訪問で会えない対象者に、郵送で調査票を配布・回収、という調査方法の変更を行った。

また前回の NFRJ08 では、継続調査への協力意向を尋ね 5 年間のパネル調査を実施したが、NFRJ18 では、同様に質問紙調査の最後に、インタビュー調査への協力意向を尋ねた。意向の表明段階では、前向きな回答を多く得られた。

前回の NFRJ08 と比べても回収数が少ないことや、調査方法の変更の影響に注意が必要であるが、時系列比較可能な大規模の公共データ構築という NFRJ の目的は達成しているであろう。

キーワード：全国家族調査（NFRJ18）